

信じられる日本へ。

新党  日本
love-nippon.com

度疲労を起こしています。

る日本を目指し、

へと、踏み出すべきなのです。



新党日本代表
田中康夫

造り続けるよりも、 今あるモノを活かす智恵を。

日本で起債（借金）可能な事業は、道路・建物・公園の3つに限定されています。訪問介護を充実させるといった分野での起債は、認められていないのです。

老人向けのデイサービスも、施設を新築する場合のみ、国からの手厚い支援があります。集落から離れた田畑の真ん中に、周囲の景観とは不釣り合いな建物が出現し続ける、それが理由です。日本では福祉すらハコモノ行政。だから、1時間に66億円もの勢いで借金が増え続け、今や総額1000兆円にも達しています。

「構造改革」を掲げた過去5年間で皮肉にも、4分の1に当たる250兆円も悪化しました。新党日本のHPにアップされている“動く借金時計”の数字が、その深刻さを如実に物語っています。

夕張市の人口を1万倍すると日本の人口。同じく夕張市の負債を1万倍すると政府の借金。夕張の財政破綻は、過疎自治体だけの話ではなく、日本全体を写し出す手鏡なのです。

こうした中、信州・長野県で推し進めた数々の革命的取り組みにこそ、問題解決の糸口があります。

知事在任中、商店街や集落の空き家を改修して老人のデイサービスと3歳までの乳幼児保育を一緒に行う「宅幼老所」を県下に300ヶ所、誕生させました。

が、国の支援は新築が前提条件。数々の制約の中で、世代分断型ではない福祉を目指した独自の施策です。

建設時には6割近くも国が負担するのに、舗装を始めとした維持補修の費用は全額、地元負担となる道路行政もハコモノ発想です。今後も造り続けて財政破綻するのではなく、今ある道路や施設を治して安心・安全な未来を創るべきなのです。

発想を変えよう。それが、新党日本が切り開く“希望の明日”への道です。

真の安全保障は、 日々の暮らしの中にこそ。

鉱物エネルギー資源には恵まれなかった日本の財産は、向上心に富む勤勉な国民性。人材ならぬ人財と表記する所以です。日本の安全保障も、そこで暮らす人間の幸福という観点から捉えるべきです。

生活習慣病に悩む各国から熱い注目を集める日本食。なのに、本家本元ニッポンの食料自給率は既に10年前から40%。健康食品の代名詞・豆腐の原料である大豆に至っては僅か5%に過ぎません。アメリカ、フランスは自給率100%以上。先進国の中で最も低い日本は、自給自足の“専守防衛”すら実現していないのです。土地改良、治山事業等の農林土木と呼ばれる公共事業に莫大な予算を垂れ流す選択を改め、自主自律の精神で踏ん張る生産者と、食の安心・安全を求める消費者が、共に幸せの利潤を得られるWin-Winの関係を構築する政策こそが重要です。健康と環境の視点に立った「原産地呼称管理制度」を日本で最初に創設したのも、こうした危機感からでした。

自殺や虐めが相次ぐ社会なのに、「こどもの心の専門医」は日本全体でも70人弱。その臨床研修が可能な医学部も5つのみ。人間を大切にしない社会に、未来は訪れません。

虐めが原因で息子が命を絶った哀しみを乗り越え、同様の悩みに苦しむ保護者と児童生徒の相談相手として各地を東奔西走していた人物を外部任用職員として課長に起用し、こども支援課を教育委員会に新設したのは、そうした思いからでした。

教員採用試験の受験年齢制限を全廃し、豊かな人生観を持った社会人の教育現場への積極投入を図ったのも、同様の考えです。一人ひとりが誇りと喜び、そして希望を得られる日本を。

富国強兵ではなく経世済民の気概を抱き、“生活の安全保障”を実現する新しいリーダーシップが、今こそ求められています。